春日市議会　近未来２１

行政視察

期　　日：平成２６年８月０６日～０７日（１泊２日）
視 察 先：「第９回　全国市議会議長会研究フォーラム（岡山）」
行　　程：別紙参照

１．【基調講演】

「人口減少時代と地方議会の在り方」
講演者：増田　寛也　氏
（野村総合研究所顧問・東京大学公共政策大学院客員教授）

第一部では上記演目によって基調講演が開催された。講演はプレゼンテーション形式で開催され、演者の主な主張は下記の様なものであった。

・要約

○人口減少の要因は、２０～３９歳の若年女性の減少と地方から大都市圏（特に東京圏）への若者の流出の２点

○推計によると、全国８９６の市区町村が「消滅可能性都市」に該当。うち５２３市区町村は人口が１万人未満となり、消滅の可能性が高い。

○少子化対策と東京一極集中対策を同時に行う必要がる。

○根拠なき「悲観論」は益にならない。国民が基本認識を共有し、適切な対策を打てれば人口の急減を回避し、将来安定的な人口規模を得ることが出来る。

（プレゼンテーション１頁より抜粋）

・人口減少社会への対応

○国民の希望が叶った場合の「希望出生率」の実現を基本目標とし、結婚をし、子供を産み育てたい人の阻害要因を除去する。

○若者が家庭を持ちやすい環境作りのため、雇用・収入の安定、子育て支援に取り組む。また、男性の育児参加を促進し、長時間労働を是正する。
○必要な費用は「高齢者世代から次世代への支援」の方針の下、高齢者対策の見直しに捻出する。
○東京一極集中に歯止め、地域資源を生かした産業を創出し、生まれ育った故郷で家庭を持ち、生活を過ごせる社会を実現する。

（プレゼンテーション２１頁より抜粋）

２．【パネルディスカッション】

「分権改革２０年と地方議会の在り方」

コーディネーター：牛山　久仁彦　　氏（明治大学政経学部教授）

パ ネ リ ス ト　：林　　宜嗣　　氏（関西学院経済学部教授）

穂坂　邦夫　　氏（元志木市長）

土山希美枝　　氏（龍谷大学政策学部准教授）

城本　　勝　　氏（ＮＨＫ解説副院長）

則武　宜弘　　氏（岡山市議会議長）

第２部では上記内容で其々のパネリストが意見交換を行った。ディスカッションを行うに当たり、コーディネーターより下記の現状認識が示された。

・自治体議会の現実・・・制度としては「二元代表制」であるが実態としては首長権限が強大なシステム。加えて自治体議会を取り巻く厳しい環境（住民からの厳しい目線）

・地方分権で拡大する自治会議会の責任・・行政への住民の意見反映。合意形成。政策形成など
・議会改革の論点・・・議会制度の改革。議会運営方式の改革。自治立法のあり方の改革。行政統制機能の改革。議会議員の意識改革。
・次のステップとして…地方分権時代の自己決定・自己責任の政治システム。即ち「議会が議会として機能することが出来る体制作り」が求められる。

（牛山氏配布資料より抜粋）

これを受けて林氏からは「議員定数に関する議論」。穂坂氏からは「分権改革を

超える社会環境の激変と政策転換の困難性」。土山氏からは「議員と議会の政策形成能力の観点から議員の一般質問の重要性」。城本氏からは「議会改革の方向性として監視型から政策提案型議会へ」。則武氏からは「地方が強くなる町作り」、を持論として様々な意見が出された。

３．【課題討議】

「議会のあり方について」

コーディネーター：横道　清孝　氏（政策研究大学院大学副学長）

報　　告　　者　：海老原　功一　氏（流山市議会議長）

川上　文浩　氏（可児市議会議長）

高橋　健二　氏（大津市議会前議長）

第３部では論点として

１、議会運営の在り方

２、政策検討・立案機能の強化

３、住民との関係強化

について、其々の自治体議会における取組の現状や今後の課題について報告がなされた。

（総括として）

こういったセミナーにおいて「議会改革の在り方」を声高に言われ続けてもう何年がたつであろうか。冒頭での基調講演にもあったが、現状の制度として強烈な首長の権限と行政が持ちうる執行権、また予算の作成に関する権利等を冷静に考え合わせれば、市民からの「議会制度を知らない」立場からの「議会は何をやっているのか」と言う素朴な疑問が出ることは勿論、仕組みを理解すればするほど「制度として議会は必要か」と言った意見になる事はむしろ当然の帰結であるのかも知れない。また、世間で囁かれる「議会不要論」に対して一部議会がそれに迎合する形で「議員のボランティア化」や「議員報酬の日給への移行」また大きくは「議員の定数削減」や「議員報酬の削減」ばかりに議会改革を進めている事はこれを肯定し拍車をかけていることになる。本来議会

の必要性はこう言った経費の問題とは切り離して考えるべきものであるはずなのに、いつの間にか「議会改革」が経費面での話でのみ語られ、それも削減の方向にのみ働くのであれば、これは正に「議会不要論」を議会が自ら肯定している事であり、自己否定の対応としか捉えられない。これは完全に方向性が間違っている。世間に不要論が渦巻いているのであればこれを取り除く方向を見出さなければならない。それは、こういったセミナーでそれこそ耳にタコができる程に記されてきた「議会での政策形成」であろうし、行政に対する「監視機能の強化」でありその為の「議会でのさらに踏み込んだ議論」である。だが、大変これが難しいのは、正にそれこそが議会制民主主義の最大の利点でもあるのだが、様々な立場や意見の人々の集合体である議会であるが故に、その意思統一が現実的に極めて難しい点にある。この中での意見ごうが図れないが故に、大多数の意見のみが議決として優先するのは仕方のない事であり、この事が首長の追認機関との印象を受ける事は充分にあり得る。逆を言えば、首長に対してオール野党の議会であれば常に厳しい議論と議決が繰り返されることにはなろうが、ではこれが市民にとって有意義であるのかと言う問題もある。様々な行政課題が全て否決され最終的には専決されていく事態をして「議会が有効に機能している」とは言い切れないであろう。ただ、間違いなくある程度の時間的な制約がある事は理解したとしても、議会における議論の習熟を、議会自体の先例や慣習が阻害要因となっているのであればそれは改善すべきであろう。政策決定等と気安く言うが、これは大変悲しいかな議会は行政のプロがほとんどいない。ただ、これはであるから故に行政に市民目線のチェック機能として働けば否定されるべきものではない。しかし、これらが作成する行政措置が有効なものと成り得るのかの補償は無い。加えて予算の後ろ盾も無い政策に実効性があるのかと言った問題もあろう。であるとするならば、まるでお題目のように唱えられる「政策立案」や「政策提言」は机上の空論であると言わざるを得ない。さりとて改革が求められているのも明確な事実ではある。

　加えて、こういった議論の際に必ず生きるのが市民からの「議会は、議員は何をいぇっているのかわからない」と言う疑問にどう答えるのかと言う問題である。今回も第３部において其々の自治体議会の情報公開の進め方が発表されている。間違いなくこれは実行すべきだ。だが、事ある毎にすべてマイナスの報道のみを世に行ない、それ以外には一切目も向けない世間があるのも厳然たる事実ではないか。少なくとも私は自らの活動とその考え方について自分でも呆れるぐらいに情報発信を行っている。だが、大変悲しい事に誰もそれに目を向けはしない。「議員視察とは名ばかりの観光旅行」等と揶揄される様をよく目にするので、こうして必ずレポートを纏めてもそれには誰も注目しない。常に言っているが、世間に蔓延っているのは「税金を使って生活している」点ばか

りに着目して公務員や議員を、常に攻撃の対象として面白おかしく攻め立てるおかしな空気だ。これに対抗する手段を公務員の何倍も持ち合わせていないのが現在の殆どの議員ではないだろうか。これでは当然、世間の気分や感情に抗えるわけも無い。益々世間に媚び諂い、むしろ「無駄の削減を」などと意味も解らず叫び続けている大衆迎合の流れが議会改革の旗手の様な誤解を受けてしまう。無駄の定義も曖昧なのにである。これはむしろ議会制と言うよりもさらに大きく民主主義を根底から脅かす愚行であると認識すべきだ。其々が議員としての自覚を持ち、政策の討議の場としての議会が存在する。これが発展して行政とも深い協議が出来た上で政策立案に繋がるのが最も望ましいはずだ。そこでしか民意は反映されない。だが、大変悲しいかなそれを行うには明確に現在の議会は、いや、議員は力不足だ。敢えて私は言いたいのだが、議会改革は本来、選挙改革でしか行い得ないのだ。無茶苦茶な人間がいくら揃って「議会改革」等と叫んだところで何処へ行くのかなど解るはずもない。力量がある人間が立候補し、それが適正に選ばれ得る選挙制度こそが私は議会改革の１丁目１番地であると考えている。

　議会改革は行わなければならない。これは明確な事実だ。だが、現行の制度では限界がある。ここに目を向けないでお題目を唱えても虚しいだけだろう。この事を改めて考えさせられたセミナーであった。

日程表

第9回 全国市議会議長会研究フォーラム in 岡山 行程表

【行程表】　　平成26年6月20日現在

月　日(曜)	行　程	宿泊地など
8月　6日(水)	9:10発　春日駅 →→→ 9:25着　博多駅（JR） 9:43発　博多駅 →→→ 11:33着　岡山駅（さくら544号）　【昼食】　12:28発　岡山駅前駅 →→→ 12:33着　城下駅（岡山電気軌道） ◎ 全国市議会議長会研究フォーラム　第1日 12:00　開場・受付 13:00　開会式 13:20　基調講演 「人口減少時代と地方議会のあり方」 14:40　パネルディスカッション 「分権改革20年と地方議会のあり方」 16:50　終了・移動 17:30～18:30　意見交換会（会場：ホテルグランヴィア岡山） 17:10発　城下駅 →→→ 17:15着　岡山駅前駅（岡山電気軌道）　・・・・・　ホテル	○会場（研究フォーラム） 岡山シンフォニーホール TEL 086－234－2001 ○会場（意見交換会） ホテルグランヴィア岡山 TEL ○ホテル ダイワロイヤルネットホテル岡山駅前 TEL 086－803－0055
8月　7日(木)	ホテル ・・・・・ 8:23発　岡山駅前駅 →→→ 8:28着　城下駅（岡山電気軌道） ◎ 全国市議会議長会研究フォーラム　第2日 8:30　開場 9:00　課題討議 課題「議会のあり方について」 11:00　閉会式 11:30発　城下駅 →→→ 11:40着　岡山駅前駅（岡山電気軌道）　【昼食】　13:46発　岡山駅 →→→ 15:14着　博多駅（さくら557号） 15:26発　博多駅 →→→ 15:44着　春日駅（JR）	○会場（研究フォーラム） 岡山シンフォニーホール TEL 086－234－2001

【会場・ホテル】

岡山シンフォニーホール	〒700-0822	岡山市北区表町1－5－1	TEL 086－234－2001
ダイワロイヤルネットホテル岡山駅前	〒700-0023	岡山市北区駅前町1－1－1	TEL 086－803－0055